



やまがた ありとも

山縣 有朋 (1838 ~ 1922)

長州（現山口県）出身
第3代・9代内閣総理大臣などを歴任
明治40年70歳から小田原に在住



きょうら けいご

清浦 奎吾 (1850 ~ 1942)

肥後（現熊本県）出身
第23代内閣総理大臣
山縣有朋の後押しで政界入り
明治40年から大正3年まで小田原に在住

第23代内閣総理大臣・清浦奎吾の別宅として建築され、その後、明治の元勳・山縣有朋の隣接する小田原別邸「古稀庵(こきあん)」の別庵として編入されました。庭園は、近代日本庭園の傑作ともいわれる無鄰菴(京都)や椿山荘(東京・目白)を手掛けた山縣が、自ら作庭を指揮したと伝えられています。

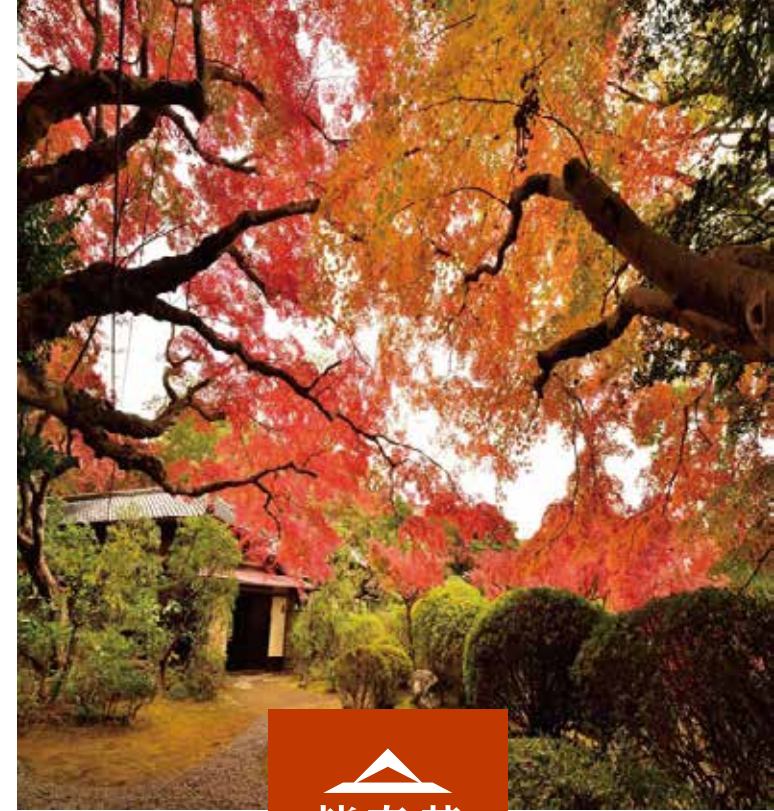
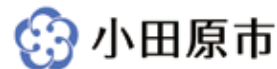
山縣の当時の生活や日本の歴史をつくる瞬間に、想いを馳せることができる貴重な遺構となっています。

【観覧時の注意事項】

- 施設管理・保全の都合上、見学できない部屋があります。
- 商用利用するために写真・動画等の撮影をする場合は、別途、市への許可申請が必要となります。
- 当施設には、駐車場がありません。公共交通機関をご利用ください。
- 庭園を含め全館禁煙です。

住 所：神奈川県小田原市板橋 852 番地
電 話：0465-20-5485
ホームページ：<https://kaishunsou.com/>
メー ル：yoyaku-k@kaishunsou.com
観覧時間：10時～16時
(主屋内：11時～15時)
休 館 日：月曜日
(月曜日が休日の場合は翌平日)
※年末年始・その他臨時休館あり
観 覧 料：無料

より詳しく
知りたい場合は
コチラ⇒



明治の元勳「山縣有朋」の別邸
こだわりの庭園と建物の融合



山縣の小田原別邸のうち、皆春荘は当時の場所に残る唯一の建物となっています。「小田原の大御所」と呼ばれ、元老として政界に君臨していた山縣には、中央政界からひっきりなしの来客がありました。

～皆春荘での山縣有朋～

軍人ながら和歌や俳句、漢誌、書など風流を愛した山縣有朋は、皆春荘で、事実上の妻として長年山縣を支えてきた貞子夫人とともに過ごしました。皆春荘には山縣公と貞子夫人が詠んだ句が今も残っています。古稀庵で最後の時を迎えた山縣公は、貞子夫人の手を取り「いろいろお世話になりました」と言って亡くなったと伝えられています。

山縣がいつもいたと言われる
観月や庭園を愉しめる「離れ」
テーマは「秋」

襖の引手：松の意匠

襖の絵柄：秋の野草



建築年代：明治40年（1907年）～大正3年（1914年）
建築面積：252.82㎡ 敷地面積：2836.6㎡
指定：歴史的風致形成建造物指定（令和3年（2021年）6月）



山縣自筆の「皆春荘」の
書が飾られています



客座敷から庭園を望む



主屋玄関

紅葉の時期には
もみじが彩り
絶景です



自然を重視した庭園を好んだ山縣は、庭園内に流水を設けるために水源として山縣水道を開き、庭園の東北より南西にかけてせせらぎを作っています。南庭に面した各部屋からは石垣山と箱根山を借景し庭を楽しむことができ、かつては相模湾も望むことができました。



襖の引手：松の意匠

襖の絵柄：実際の相模湾へと
続く波模様

